

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 教師側の変容

- ① 教師の道徳に対する熱意が高まり、協力体制ができてきた。
- ② 研究授業やモデル授業等により、「道徳の時間」に対する意欲が高まり、技術向上につながった。
- ③ 道徳的実践力の向上を目指し「道徳の時間」と他の教育活動との関連を図って指導するようになってきた。

道徳性に関するアンケート集計（保護者・教師）の一部
4：大変良い 3：良い 2：やや悪い 1：悪い

項目	教師		保護者	
	2.0	2.5	2.0	3.0
1 生活のけじめがしっかりしている。 (望ましい生活習慣、健康、節度)	2.3			2.6
5 自ら考え、正しく判断し行動する。 (自主・自律、誠実、責任)	2.7			2.8
6 自らの役割を誠実に実行し、行動に責任を持つ。 (自主・自律、誠実、責任)	2.7			2.8
10 時と場に応じたあいさつ・言葉づかいができる。 (礼儀)	2.4			3.2
15 他の忠告を素直に受け入れることができる。 (自他の尊重、謙虚、広い心)	3.0			2.7
18 生命の尊さを知り、かけがえのない生命を大切に生活できる。 (生命の尊重)	2.9			3.1
24 家族の一員としての自覚を持ち、家族を思いやる気持ちをもつ。 (家族愛)	3.1			3.0
23 勤労の尊さを理解し、進んで奉仕活動に取り組む。 (勤労の尊さ、奉仕、公共の福祉)	2.8			2.7
26 地域社会の一員としての自覚をもち、郷土の発展に貢献しようとする。 (郷土愛)	2.7			2.5

(教師) (保護者)

(2) 生徒側の変容

- ① 体験学習で得られたことが、奉仕活動に生かされ、進んで参加する姿が見られるようになった。また、弁論発表等にもおもしろいをテーマにするものが多くなった。
- ② 毎日の清掃活動に一生懸命取り組む姿が多く見られた。
- ③ ボランティア部では、施設の訪問、保育所訪問に積極的に参加する生徒が多くなり、自主的に朝清掃する姿が見られた。
- ④ 道徳の授業の受け方が向上し、積極的に参加するようになった。

内容項目別の分析の一部
道徳性検査主計表 (3年) 平成10年度 平成9年度

項目	総 合								
	男子			女子			全体		
	2.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.5
1(1) 調和ある生活									
1(1) 節度									
1(2) 強い意志									
1(3) 自主自律									
1(4) 理想の実現									
3(2) 生命の尊重									
4(4) 勤労・奉仕									
4(7) 郷土愛									

(3) その他の変容

- ① PTAあいさつ運動が実施され、会合等で道徳についての話題が多くなった。
- ② 町役場との連携体制ができてきた。
- ③ 学校便りや方部懇談会、授業参観、PTA総会等を通して、研究の趣旨や実践体験学習、家庭教育のあり方などについて啓発に努め、保護者の理解を得ることができた。



2 今後の課題

- (1) 豊かな体験学習の場を、学校行事との関連からどのように設定していくか、工夫が必要である。
- (2) 生徒が主体的に企画・運営する体験学習の場をどう設定するか工夫が必要である。
- (3) 家庭や地域との連携を強化し、家庭、地域での実践が深まるように、どのように協力し合ったら良いかさらに研究したい。